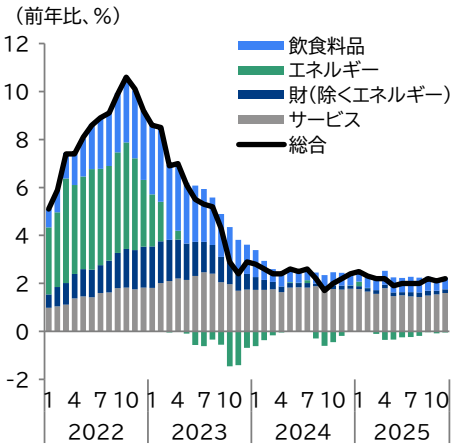
欧州

消費者物価（2025年11月）

物価は2%付近で推移、ECBは政策金利を維持すると予想

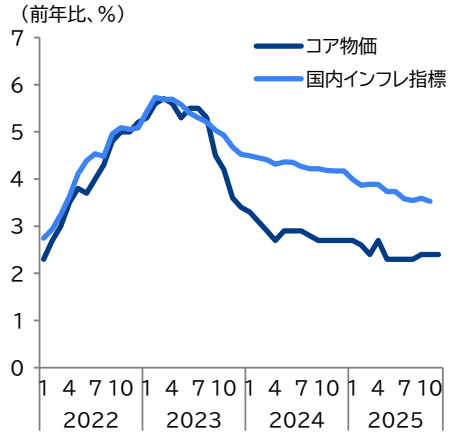
政策・経済センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

1 消費者物価（ユーロ圏）



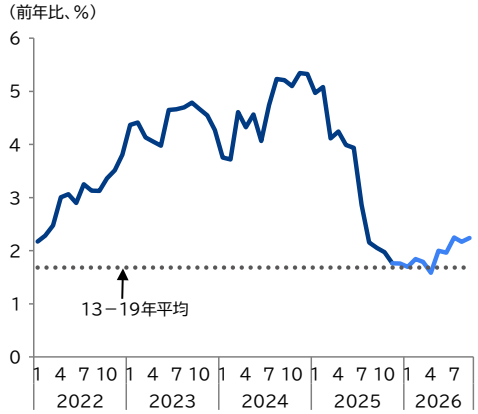
出所：Eurostatを基に三菱総合研究所作成

2 基調的物価指標（ユーロ圏）



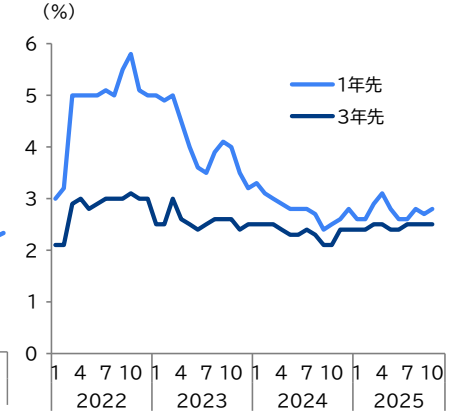
注：国内インフレ指標のみ直近は25年10月。
出所：Eurostatを基に三菱総合研究所作成

3 ECB賃金トラッカー



注：月次。公表されているデータは2013年以降。一時金の支払いを含む賃金。水色は25年12月以降。
出所：Macrobondを基に三菱総合研究所作成

4 家計の期待インフレ（ユーロ圏）



注：中央値。
出所：Macrobondを基に三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 25 年11月のユーロ圏の消費者物価指数（HICP、速報値）は前年同月比+2.2%（図表1）。25年以降、多少の振れはあるものの、物価は2%前後で推移している。
- ECBが重視する、基調的物価指標は緩やかではあるが、伸びが鈍化している（図表2）。コア物価は前年同月比+2.4%と2%台半ばで推移しているほか、賃金上昇の影響を受けやすい国内インフレ指標は25年10月時点で同3%台後半まで低下している。

基調判断と今後の流れ

- ユーロ圏の物価は、ECBの物価安定目標である2%付近で推移している。
- 先行きも、物価は2%付近で推移するとみる。
- ユーロ圏の物価は、サービス価格主導に移行しており賃金の動向が物価に影響する。主要国の賃金交渉状況を反映したECBの賃金トラッカーをみると、26年以降の賃金の伸びは2%程度であり、物価高による家計の購買力低下を取り戻すための大幅な賃金引き上げは落ち着いている（図表3）。過去（13-19年平均）と比較すれば、やや伸びは高いが、同期間は低インフレの時期であるため、物価の上振れリスクは低い。
- また、家計の期待インフレは1年先・3年先ともに安定して推移している（図表4）。物価上昇を予想した、需要の増加や高めの賃金引き上げ要求も生じにくいだろう。
- ユーロ圏の物価が2%付近で安定的に推移していることから、ECBは12月の理事会でも現在の金利水準（下限の中銀預金金利2.0%）を維持するとみる。エネルギー価格の上昇や米国の通商政策の変更など、物価安定に影響するリスク要因が顕在化しない限り、ECBは中立金利近傍にある現在の金利水準を維持するだろう。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.